

令和5年度 学校評価 総括

《 学校評価分析から導かれる今後の課題 》

- ◎学習ルールの共通理解・学習規律の確立【継続】
- ◎児童の学習への取り組み方（家庭学習を含む）【新規】
- ◎物事を最後までやり抜く力の育成【新規】
- ◎学校応援団等、地域連携【継続】
- ◎SNS・スマートフォンに係る指導（情報モラル）
- ◎学校行事の運営について
- ◎安全管理
 - ・タブレット等使用に係るルール
 - ・情報モラルにかかる学習の充実
 - ・アフターコロナにおける学校行事の在り方

《 まとめ 》

今年度はアフターコロナ禍元年として、授業及び学校生活全般においてタブレットの活用やリモート学習等が日常的になってきており、ICTの活用はその先の子供たちが主体となってどういう場面で如何に活用していくかが課題となってきた。その上で、新しい教育振興基本計画に向けて、持続可能な社会の創り手の育成や日本社会に根差したウェルビーイングの向上といった2つのコンセプトを保護者や地域とともに進めていくことが課題となった1年間であった。

一部感染症対策を行いながらも授業や学校行事等が以前の形に戻りつつある。運動会、音楽会も制限なしで実施を行った。この学校行事開催は概ね保護者アンケートでも好意的に受け取られている。行事の形を模索していくことも今後の課題である。

学校評価や保護者アンケートにて寄せられたもののうち、今年度中に対応可能・検討可能なものについては今後協議を進め、共通理解をしながら対応していく。(以下はその一部)

①あいさつの推奨、②子供同士のかかわり方（多様性の受け取り方と理不尽・わがままの区別の仕方の指導）、③家庭学習の取り組み方、④さくら連絡網の対応時間について

保護者アンケートは、すでにフィードバック済みであり、職員自己評価を含めてまとめたものをもとに学校運営協議会委員に学校関係者評価をお願いする。そこで学校の課題をご指摘いただき、全職員にて共有して、次年度（または今年度中）の課題として教育活動の質の向上に努めるものとする。